

Hondaの
安全運転普及活動
報告書

2016



Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして





Honda の安全運転普及活動報告書 2016

ごあいさつ……………3

本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部 本部長
竹内 弘平

特集：福祉領域における安全運転普及活動の進化……………4

運転する喜びを再び感じていただくために

Honda の安全に対する考え方……………7

Safety for Everyone すべての人の安全をめざして

2016 年 3 ヶ年計画 最終年の振り返り……………8

様々な分野の皆様との連携を深め、
活動を進化させる

1) 教育ソフトウェアの開発と導入……………10

様々な年代やニーズに合わせて進化させた先進性・独自性のある教育プログラム

2) 普及活動の変革と進化 01……………12

地域に密着した手渡しで安全を伝える活動

2) 普及活動の変革と進化 02……………14

交通安全教育に取り組む地域の指導者をサポート

2) 普及活動の変革と進化 03……………16

福祉領域における安全運転教育
交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携

2) 普及活動の変革と進化 04……………18

企業・団体や学校、個人に対応した参加体験型の実践教育

3) 海外における二輪事故低減の実現……………20

海外における交通安全普及活動

資料編

安全運転普及活動の情報公開……………22

交通安全の実現に向けた教育教材と機器……………23

Honda の交通安全拠点「地区普及ブロック」……………24

地区普及ブロック活動実績……………25

Honda の参加体験型実践教育の場「交通教育センター」……………26

安全運転普及活動 この 1 年の歩み……………27

ごあいさつ



本田技研工業株式会社 専務執行役員
安全運転普及本部 本部長

竹内 弘平

日頃より Honda の安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年も様々な活動に取り組んで参りましたがこれも皆様のお陰によるものと、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げます。

私どもはモビリティをつくるメーカーの使命として「事故に遭わない社会」の実現のために「Safety for Everyone」というグローバルスローガンに基づき、世界6極（北米、南米、欧州、アジア・大洋州、中国、日本）において、各地域の実情に応じた活動を推進しています。安全技術、安全情報、安全教育の3つの領域を進化、相互に連携させることによって運転者のみならず、歩行者・自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全をめざしています。しかしながら、WHO（世界保健機構）の指摘にもあるように、全世界で見ると発展途上国、新興国を中心に年間 125 万人の方が交通事故で亡くなっていると言われ、深刻な状況であります。国連をはじめ、関係団体・組織が 2020 年を目標に、2010 年比で半減するよう事故抑止に取り組んでいます。

一方、日本における交通事故の情勢を見ますと、2015 年は負傷者数、交通事故発生件数は 11 年連続で減少したものの、交通事故発生から 24 時間以内に亡くなられた方は 4,117 人と 15 年ぶりに増加に転じました。本年は 10 月末時点では、死者数も再び減少に転じていますが、高齢社会が進む中、一層の事故死者低減には官民あげての効果的な対策が求められているところです。

このような中、今年政府は第 10 次交通安全基本計画を策定しました。東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される 2020 年を目途に死者数を 2,500 人以下とし、世界一安全な道路交通社会を目指すという政府目標を達成するためには、さらに一段と取り組みの進化が求められるところです。

2014 年に発表した先進安全運転支援システム Honda SENSING/AcuraWatch は、センサーなどを活用し車両の周辺情報をもとに通常走行時から事故回避まで運転を支援する先進安全技術の総称ですが、2015 年には

日米欧でその搭載機種を拡大するとともに、さらにタイや中国でも搭載を開始しています。このような技術を着実かつより早く普及させながら、その先にある将来の自動運転技術につなげていきたいと思っております。

また、「急ブレーキ多発地点」や「事故の多いエリア」、「みんなが投稿した危険な地点」などを、ウェブ上で確認することができる地図サービス「SAFETY MAP」のデータを活用して具体的な道路改善や事故防止施策に役立ててもらおうと、各県の警察や自治体に提言する活動も継続しております。Honda の強みを活かしながら、情報という観点からも交通事故防止に向けた取り組みを進めています。

安全教育の領域につきましても、重点課題であります高齢者対策、とりわけ高齢歩行者への教育や幼児・児童から中高生向けの教育などの普及を推進してきました。また、ここ数年力を入れております福祉安全運転活動では、運転復帰を目指す高次脳機能障がい者向けに地域の自動車教習所と連携し、近隣の病院やリハビリテーション施設と協力して、安全に運転を再開するというプロセスの拡大やリハビリテーション施設やデイケアセンターで高齢者の安全で安心な移動に従事している運転者向け教育プログラムの拡大を図ってきました。安全教育の領域でも社会のニーズに対応し、新たな視点や発想を取り入れながら活動の進化をめざします。

海外につきましても、アジアを中心に Honda の海外事業所が中核となって販売店と共に運転者教育のみならず子供たちの教育や様々な啓発活動も実施するなど積極的に交通安全普及活動を実施しています。今後も日本のノウハウの提供や人材育成など現地のニーズに応じた支援を継続して参ります。

Honda は「事故に遭わない社会」の実現をめざし、これまで以上に行政、関係団体、地域社会など多くの皆様と連携を深めながら、交通安全に取り組む所存です。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Honda への変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

運転する喜びを 再び感じていただくために

Hondaは「Safety for Everyone～すべての人の安全をめざして」という考えのもと、お身体が不自由な方の安全な移動手段の確保のため、自動車運転能力評価のためのソフトや安全運転プログラムを開発し、提供してきました。そして、脳卒中などにより高次脳機能障がいとなった方が回復後に運転復帰する際のプロセスの構築も支援しています。こうした取り組みに力を入れているのは、運転復帰を希望するお身体が不自由な方を支援することで、自らクルマを操り、自由に移動できる喜びを再び感じていただきたいという想いがあるからです。



「運転能力評価サポートソフト」は、Honda セーフティナビ（簡易型四輪ドライビングシミュレーター）のリハビリテーション向けソフトを使用

安全運転教育で培ったノウハウを 福祉領域に活かす

高次脳機能障がいでお身体が不自由になった方はリハビリテーションを経て、社会復帰をめざします。その中には、運転の再開を希望される方もいます。しかし、運転を再開できるかどうかの明確な基準は存在せず、担当の医師や作業療法士の方々がその判断に苦慮しているという現状があります。特に、公共交通機関が十分に整備されていない地域では、回復後にクルマを運転できるかどうかは日常生活を送る上で重要な問題です。Hondaはこうした問題を解決す

るため、長年培ってきたドライビングシミュレーターの技術を活用して、リハビリ中の方の運転に対する評価や訓練を支援するための「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）（P23参照）を開発しました。2012年の発売以来、多くの病棟施設がサポートソフトを導入。実車による実技訓練に移行できるかどうかの判断材料として、従来の机上検査に加え、サポートソフトによる検査も取り入れられるようになったのです。

Hondaの呼びかけで 四国4県の病棟施設 が連携

その後、サポートソフトを導入した病棟施設が共通の課題を解決するために連携するというケースも生まれています。四国地域は移動手段としての自家用車の依存度が全国平均より高いこともあり、病棟施設においてクルマの運転復帰に向けた相談も増加していました。Hondaは徳島県、香川県、愛媛県、高知県、淡路島（兵庫県）で患者の運転復帰支援に積極的な病棟施設に横断的な連携を呼びかけ、「四国運転リハプロジェクト（以下、プロジェクト）」を2014年11月に立ち上げたのです。プロジェクトのメンバーは、作業療法士や社会福祉士として患者の社会復帰を支援している方々で、リハビリ加療中の方の運転復帰への可能性を少しでも広げたいという共通の想いがありました。メンバーが所属している病棟施設では障がいをお持ちの方の運転能力の評価方法として、机上検査とサポートソフトを組み合わせています。しかし、すべての病棟施設にサポートソフトが導入されているわけではなく、評価方法も改善の余地がありました。プロジェクトでは運転能力の評価方法を確立し、それを四国4県にとどまらず全国の病棟施設に普及させることを目標としたのです。

運転能力を評価するための新たな手法を確立する

プロジェクトのメンバーは地域性や施設の規模に関係なく、病棟施設の中で運転能力を評価できる手法を模索しました。そして、導き出されたのが停止車両評価。文字通り、停止状態のクルマを活用して運転に必要なとされる能力を評価するものです。これは、プロジェクトに協力していたHondaのスタッフが発した「止まっているクルマを使えば、駐車場一台分のスペースで何かできるのではないか」という一言がきっかけでした。この時は、メンバー全員が「動かないクルマで一体何がわかるのだろう」と思ったそうです。停止状態の車両で何が評価できるのかを検討してみると、クルマへの自力での乗降、適切な運転姿勢

と姿勢保持、ハンドルやブレーキの操作力といった身体機能だけでなく、視野や距離感覚、位置感覚などの高次脳機能の評価できることがわかってきました。そして、実際に運転復帰をめざす方に停止車両評価を体験してもらうなど検証を進めると、シミュレーター以上に評価結果に対する納得性が高く、その妥当性が確認できました。停止車両評価はクルマを一台用意できれば、どの病院でも実施可能です。プロジェクトでは普及に向けて評価方法などを詳しく解説したマニュアル「自動車運転再開ガイドブック」の作成を進めています。プロジェクトリーダーを務めた徳島健祥会福祉専門学校

の岩佐英志さんは、1つの病院が単独で他の病院に声をかけるというのはなかなか難しいことだといいます。「Hondaが私たちを結びつけてくれたことによって、プロジェクトを実現できました。また、クルマや運転のプロとしての視点で様々なアドバイスをもらったので議論がより深まりました。医療関係者だけでは、ここまでの成果を生み出すことはできませんでした。」こうしたプロジェクトの活動がきっかけとなり、（一社）日本作業療法士協会では来年度から同協会内に自動車運転支援委員会の立ち上げを決定しました。運転復帰を支援するための輪は、四国から全国へと広がろうとしています。



評価項目や判断基準について、議論が重ねられた



四国運転リハプロジェクトが考案した停止車両評価

【四国運転リハプロジェクトの主要メンバー】

●プロジェクトリーダー
徳島健祥会福祉専門学校
（一社）徳島県作業療法士会会長
岩佐英志さん（写真前列中央）

●副リーダー
近森リハビリテーション病院
矢野勇介さん（写真前列右）

●総合リハビリテーション伊予病院
楠哲郎さん（写真後列左から2番目）



●かがわ総合リハビリテーション事業団
大野香織さん（写真後列右から2番目）
上川毅さん（写真前列左）

●伊月病院
山下旭さん（写真後列右）

●洲本伊月病院
坂本敏行さん（写真後列左）

自動車教習所で実車での評価・訓練ができるように

机上検査やサポートソフト、停止車両評価によって一定の評価が得られると、実車走行に移行します。Hondaはサポートソフトと合わせて、「自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）」を2012年に開発しました。これは実車での評価・訓練をサポートすることを目的としており、実車による体験を重ねることで、運転基礎感覚（方向・速度・車両・位置・距離・直進）と運転基本操作（走る・曲がる・止まる）を確認できるのが特色です。自操プログラムは全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センターで展開していますが、受講を希望

する方が利用しやすいのは近隣の自動車教習所です。そのため、Hondaは自動車教習所への自操プログラムのノウハウ提供を開始しました。既に弘前モータースクール、青森モータースクール、八戸モータースクール、浪岡モータースクール（いずれも青森県）、津嘉山自動車学校（沖縄県）が導入。これらの自動車教習所では、運転復帰を希望される方へのサポート体制を充実させるために、Hondaからのノウハウ提供を受けました。来年以降も、岩手県、群馬県、長野県、広島県、熊本県の自動車教習所への導入を予定しており「場」と「機会」を広げていきます。



自動車教習所にも普及している自操安全運転プログラム



自操プログラムのノウハウを自動車教習所に提供

送迎運転者へ実技による教育を普及させる

今後、高齢化が進むことでデイケアセンターなどの福祉施設への送迎サービスを利用する方が増えることが予想されます。Hondaは送迎中の交通事故を予防し、利用者の安全で安心な移動を確保するため、送迎運転者向けの「移送安全運転プログラム（以下、移送プログラム）」を2013年に開発しました。送迎サービスの利用者の中には健康者なら気にならない加速や減速でも自分で身体を支えきれないことがあるため、アクセルワークやブレーキングへの配慮が必要になってきます。移送プログラムは安全運転のスキルを身につけるだけでなく、利用者をはじめ他のクルマや歩行者に対する思いやりや配慮の大切さを送迎運転者に理解してもらうことを目的としています。この移送プログラムもHondaの交通教育センターで提供していま

すが、送迎サービスを提供する団体等に移送プログラムを活用してもらうことで、送迎運転者への安全運転教育の場と機会の拡大を図っています。群馬県では、群馬県住民参加型在宅福祉サービス団体連絡会が県内各地で「福祉サービス送迎運転者講習会」を開催しています。同連絡会では、受講者から座学に加え実践的な内容を求める声が高まったため、移送プログラム導入を決めました。平成28年度は実技演習を取り入れた講習会を2回開催する計画になっています。山形県で「福祉・介護施設のための施設送迎運転者勉強会」を展開しているやまがた福祉移動サービスネットワークも、今年度から移送プログラムを導入。それまでは座学だけの勉強会でしたが、実技演習もできるようになりました。このように、Hondaのはたらきか

けによって、送迎運転者の安全意識を高めるためには実技による安全運転教育が必要だという認識が浸透しつつあります。自操プログラム同様、来年以降はさらに多くの地域で活用される予定です。

今後、Hondaは病棟施設や自動車教習所、福祉団体への支援を通じ、一人でも多くの方に喜んでいただける安全運転活動を続けていきたいと考えています。



群馬県の福祉サービス送迎運転者講習会

Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、道を使うだれもが安全でいられる「事故に遭わない社会」をつくりたい。Hondaは、その実現に向け、安全の知識や運転技術をたくさんの「ヒト(ソフト)」に伝えること、安全に関わる「テクノロジー(ハード)」の開発、さらには安全情報を伝えあう「コミュニケーション」を推進する活動に力を尽くしてまいります。

その「ヒト(ソフト)」の領域において、子どもから高齢者まで各年代に応じた交通安全啓発活動を地域社会と一体となって進めることが必要と考え、積極的に取り組んでいます。



安全運転普及本部の活動

Hondaの安全運転普及活動は、人に焦点を当てた「人から人への手渡しの安全」と、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を基本に、活動の三本柱として、人づくり、場づくり、ソフトウェアの開発に取り組んでいます。

人づくり

交通安全を伝える指導者を養成しています。

効果的に交通安全教育を行い、活動を広げるためには、それを実践する指導者が不可欠です。そのため、Hondaは手渡しの安全の担い手である指導者の養成に積極的に取り組んでいます。また、活動に賛同してくださる企業・地域・自動車教習所などの方々へ、要望に応じて指導ノウハウを提供するなど、指導者養成を支援しています。

場づくり

交通安全を考え、学ぶための「場」と「機会」を提供しています。

交通ルールやマナー、安全運転について日常的に考え、学ぶための「場」と「機会」をお客様や地域の方々へ提供しています。例えば、親子で学べる交通安全教室や危険を安全に体験していただく参加体験型のスクール、受講者同士の話し合いの中から自分の交通行動を振り返る講習など、様々な学びの「場」と「機会」を創出しています。

ソフトウェアの開発

学習効果を高めるための「教育プログラムや教育機器」を開発しています。

安全教育の現場でご活用いただける教育プログラムや教育機器等、「ソフトウェアの開発」も安全運転普及本部の重要な活動の1つです。本人の気づきを促す各種交通安全教育プログラムや、危険を安全に体験していただける各種シミュレーターなど教育機器の開発に力を入れています。

安全運転普及本部の活動体制

できるだけ多くの人に
安全教育に参加してほしいから、
活動の場を広げています。

安全運転普及本部では、各年代に応じたきめ細やかな安全運転普及活動が行えるよう、活動体制を整えています。それぞれの活動拠点に、役割に応じた専任のインストラクターやスタッフを配置し、皆様に交通安全教育の「場」と「機会」を提供したり、関係諸団体と連携した交通安全普及活動に取り組んでいます。



様々な分野の皆様との連携を深め、活動を進化させる

重点課題

今年度は3ヶ年計画の最終年にあたり、引き続き「先進性・独自性のソフト開発による、戦略的な普及活動への転換」という方針のもと、以下の3つの重点課題に取り組んできました。

- 1) 教育ソフトウェアの開発と導入
- 2) 普及活動の変革と進化
- 3) 海外における二輪事故低減の実現

1) 教育ソフトウェアの開発と導入

『幼児への新たな教育プログラムの開発』

交通安全は日常生活の中でとても身近なものであり、行動範囲が広がる前の幼児から教育していくことが重要です。しかし、幼少期の子どもにとって交通安全教育は一般的に堅苦しく、興味がわきにくいものといえます。そこで、私どもは子どもが交通安全について「学ぶ」ことに加え、「楽しい」「おもしろい」と感じられるようにすることが効果的だと考えました。そして、子どもが楽しく安全意識を醸成できる新たな交通安全教育プログラムを開発しました。このプログラムは幼児を対象にオリジナル交通安全アニメーションを活用し、指導者との対話を通じて危険予測能力を養うことをめざしています。また、導入部分では、子どもが身体を動かしながら楽しく安全行動を学べる体操も取り入れています。

開発にあたっては、地域で指導にあっている交通指導者の皆様や幼稚園・保育園の先生方からご意見をいただき、現場で使いやすい、子どもに効果のあるものとして検討を重ねました。改めましてご協力いただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。また、現在、児童向けの教育プログラムの開発にも着手しています。こちらも幼児向けと同様に、現場の交通指導者の皆様からのご意見をいただき、Hondaらしい教育プログラムの完成をめざしています。

『SAFETY MAPの活用領域の拡大に向けて』

SAFETY MAPは地域住民の皆様をはじめ、小・中学校や企業などの団体が地域の安全活動に活用できることを目的としたソーシャルマップです。私どもは、SAFETY MAPの情報をもとにした道路環境の改善提案によって1件でも事故を減らすための取り組みを進めています。3月には大阪府警察本部と交通事故防止対策の推進に関する協定を締結し、SAFETY MAPを活用した交通事故分析など相互に協力することとなりました。具体的には、SAFETY MAPに表示される急ブレーキ多発地点データを、同府警本部の交通事故分析用地図データ内に反映し、より多面的な事故分析に活用するなど、交通事故防止対策につなげていただいています。さらに今後、長野県警察本部とも同様の協定を締結する予定で、活用領域は広がっています。

2) 普及活動の変革と進化

『障がいのある方を対象にした安全運転の取り組み』

脳卒中などにより高次脳機能障がいとなった方がクルマの運転を再開しようとした時、その方の運転能力を評価できる医療機関はまだ少ないのが現状です。それは運転の可否判断に必要な評価項目や基準が明確にされていないからです。そこで、私どもは、長年蓄積してきた安全運転教育のノウハウを活かし、医療関係者の運転可否判断をサポートするためのソフトやプログラムを開発し、普及に努めています。

現在、実車による運転評価や訓練をサポートするための「自操安全運転プログラム」を全国にあるHondaの交通安全センターで提供しています。しかし、運転復帰をめざす方にとって最も身近な場所は近隣にある自動車教習所です。そのため、「自操安全運転プログラム」を身近な自動車教習所で受講できるようにする体制づくりも進めています。さらに、地域における運転復帰プロセス構築を支援するための活動にも取り組んでいます。運転復帰をめざす方が実車による訓練を始める前に運転能力を評価する方法と判断基準の明確化を目的に、四国4県の病院・リハビリセンターの皆様とプロジェクトを立ち上げ、今年は多くの病院などで実践可能な評価方法を確立することができました。プロジェクトでは、

この成果を四国4県だけでなく、全国で同じ課題を抱える病院にも拡げていきたいと考えています。

また、高齢化が進むことで病院や福祉施設へのクルマによる送迎も増えており、送迎時における利用者の安心安全の確保にも取り組んでいます。私どもは送迎運転者を対象にした「移送安全運転プログラム」を開発し、送迎サービスを提供する団体などに活用していただいています。群馬県や山形県では今年から、送迎を担う運転者への実技講習として、この「移送安全運転プログラム」を取り入れました。

『交通安全の普及拡大に向けた場と機会の創出』

●地域に密着した販売会社の交通安全活動への支援

お客様との接点であるHonda Cars（四輪販売会社）との連携を強化し、各社の交通安全活動の活性化を進めています。この背景には販売拠点のある地域社会にも活動の輪を拡げ、お客様だけでなく地域の皆様も守りたいという想いがあります。

その一環として、Honda Cars各社のスタッフがHondaの幼児向け交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編」の研修を受講し、そのスタッフがショールームに来店いただいたお子様や、近隣の幼稚園・保育園の園児に交通安全教室を行うなどの地域に密着した活動を展開しているところで

また、これらの安全活動に加えて、店頭でお客様への安全アドバイスができるセーフティコーディネーターというHondaの社内資格の研修体制も見直しました。Hondaの創業当時から現在まで受け継がれている交通安全に対する理念を正しく理解していただける内容とし、Honda Cars各社が自主開催できるように改定しました。

●交通安全教育の普及拡大に向けた取り組み

交通安全教育の場と機会の拡大に向け、私どもは地域や学校との連携も進めています。昨年11月に私どもが開発した高齢歩行者プログラムは今年から本格的に全国各地への普及を開始しました。2015年の交通事故死者数に占める高齢者（65歳以上）の割合は54.6%で、これを状態別にみると歩行中が半数近く（47.6%）を占めています。このプログラムをより多くの地域指導者の皆様に普及させることで、少しでも高齢者の歩行中の死者数低減に寄与していきたいと考えています。

2012年にスタートした高校生交通安全教育は5年目を迎えました。今年は、高校の先生方が自主的に座学や実技による自転車教育ができるように指導マニュアルを作成し、活動意志のある高校へ提供しています。このマニュアルが、高校における交通安全教育の一助になればと思います。

3) 海外における二輪事故低減の実現

海外では、お客様や地域社会へ交通安全を伝える活動は、Hondaの海外事業所が主体となって展開しており、私どもはこうした活動を支援しています。日本の交通安全センターが海外事業所の二輪指導者を養成する研修の、カリキュラム、フィードバック方法、教材を刷新。指導力、企画運営力の強化に重点をおくことで、活動の中核となる指導者の養成に資することができ、これまでに5カ国がこの研修を受けました。また、タイにおけるHondaの販売会社A.P.Hondaが7月にチェンマイとプーケットの2か所に新たに交通安全施設を開設しました。ここに新規採用された人材をインストラクターとして養成するための研修にも協力しました。

今後に向けて

さて、本年までの中期3ヶ年計画では、以上3つの重点課題に取り組み、それぞれが形となり普及が始まりました。今後も交通環境ニーズに合わせて、様々な活動を進化・発展させたいと考えております。Hondaのグローバルスローガン「Safety for Everyone」すべての人の安全を目指して、私どもは引き続き活動を推進していきます。

*各重点課題の活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しております。

1 教育ソフトウェアの開発と導入

様々な年代やニーズに合わせて進化させた
先進性・独自性のある教育プログラム

Honda では、様々な年代や時代のニーズに合わせた
新たなソフトウェアの開発を推進しています。
そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育
機器、教材などの普及拡大にも努めています。



●交通ルール・マナーを学んだ子どもへの新たな教育プログラムを開発

今年9月に開発が完了した幼児向け
の教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」は、交通
ルール・マナーを学んだ子どもが
実際の道路に出る前に映像で道路
上の危険箇所を対話形式で考える
プログラムです。ただ映像を流す
だけでなく、途中で映像を停止さ
せ、指導者が子どもに問いかけな
がら、「道路のどこに危険がある
か」考えてもらいます。また、導
入部分では交通事故を防ぐために
重要な「止まる」「観る」「待つ」
という動作を習得しやすい振り付
けの体操も取り入れました。開発
にあたっては、地域の交通安全指
導者の方々からの意見を数多く反
映させ、現場で使いやすいもの
をめざしました。交通安全指導者
の方々がかこれまで行ってきた教育
手法と組み合わせて使うことも可能
です。

オリジナル交通安全アニメーション「できるニャンと交通安全を学ぶ」のCD-ROM

身体を動かしながら楽しく安全行動が学べる「できるニャンたいそう」

●交通事故未然防止へ「SAFETY MAP」の活用

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用できることを目的に制作しました。個人の利用だけでなく、交通事故の未然防止に活用する企業・団体も増えています。大阪府警察本部は本年3月に、Honda と SAFETY MAP を活用した交通事故分析など相互に協力するという協定を締結しました。SAFETY MAP に表示される急ブレーキ多発地点データを、同府警察本部の交通事故分析用地図データ内に反映し、より多面的な事故分析に活用しています。交通事故の未然防止対策として、数箇所の道路の環境改善を実施しました。警察庁交通企画課の協力のもと

全国の都道府県警察にも SAFETY MAP をご紹介いただきました。福井県では昨年からの交通安全推進連絡協議会を立ち上げ、各市町に SAFETY MAP の活用を促進し、県内の通学路の道路改善に活用しています。3月までに52カ所で対策を実施しました。また、SAFETY MAP には投稿機能があり、これを道路改善に向けた住民の意見収集に利用している自治体もあります。沖縄県北中城村では村内の幼稚園と小学校、中学校に通う子ども約1,800人の保護者に、通学路の中で危ないと感じている場所や安全対策を要望する箇所について SAFETY MAP への投稿を依頼しました。約1ヵ月半で260件以上の投稿が寄せられ、これをもとに警察と協議しながら、

通学路周辺の道路改善を実施しています。Honda はさらに多くの企業・団体にはたらきかけることにより、SAFETY MAP を交通事故低減に役立てていきたいと考えています。



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。
<http://safetymap.jp>

大阪府警の道路改善実績



(改善前)



(改善後)

2) 普及活動の変革と進化 01

地域に密着した 手渡しで安全を伝える活動



Honda Cars（四輪販売会社）では店頭での安全アドバイスなど、お客様との触れ合いを大切にされた手渡しの安全活動を実践しています。さらに、販売拠点がある地域社会にも活動の輪を拡げるため、Honda Cars による活動の質を高めるための支援を続けています。



●より多くのお客様、地域社会との絆を深める

現在、Honda Cars（四輪販売会社）が力を入れている取組みは、Honda の交通安全教育プログラム「あやとりい ひよこ編（以下、あやとりい）」を活用した幼児向け交通安全教室の展開です。Honda は Honda Cars のスタッフが交通安全教室の指導者となるように、研修会を実施しているほか、円滑に運営するためのマニュアルを作成し、指導ノウハウを各社に提供しています。群馬県内の Honda Cars で構成する群馬県ホンダ会では7月に会員各社のスタッフを集め、「あやとりい」活用のための研修会を開催しました。Honda のインストラク

ターが「あやとりい」の指導内容を解説し、ワークシートを使って実演。その後、参加者が指導者役と受講する園児役になり、指導内容を実践しました。群馬県ホンダ会総務委員長を務める後藤美智雄さん（Honda Cars 高崎北・取締役常務執行役員）は「小さなお子さんが交通事故に巻き込まれないようにすることで、地域に貢献していきたいと考え、『あやとりい』を取り入れることにしました。各拠点が幼稚園・保育園で交通安全教室を開催できる体制づくりをめざしています。53 拠点あるので、群馬県全域で展開していきたい」と話しています。



群馬県ホンダ会の会員各社のスタッフを対象にした「あやとりい」活用のための研修会



●各地域のニーズに合わせて「あやとりい」を展開

Honda は「あやとりい」を全国 186 社の Honda Cars に普及し、そのうち 39 社が実際に活用を始めています（11 月末時点）。Honda Cars 埼玉県東（埼玉県）では、5 月の大型連休中に全拠点で 64 名のお子様を対象に「あやとりい」による交通安全教室を実施しました。また Honda Cars 福岡（福岡県）ではお客様とそのお子様を対象にした「ファミリー安全運転講習会」を定期的に各拠点で開催しており、その中に「あやとりい」による交通安全教室を取り入れています。お子様と一緒に参加した保護者の方々からは「イ

ラストを使って説明してくれたので、小さな子どもでも理解できる内容だった」「こうした機会があると家族で参加しやすいのでありがたい」という声が聞かれました。Honda Cars 市川（千葉県）では拠点の近くにある保育園などにスタッフが外向いて交通安全教室を実施しています。さらに Honda Cars 三河（愛知県）は 10 月より愛知中央ヤクルト販売（株）と連携し、同社の各拠点に併設された保育園での交通安全教室をスタートするなど、Honda Cars を中心に地域に根ざした活動が拡大しています。

全国各地の Honda Cars ではショールームや、近隣の保育園・幼稚園で「あやとりい」による交通安全教室を実施



Honda Cars 福岡



Honda Cars 市川



Honda Cars 三河

● Honda Cars のスタッフに対する安全研修の充実

Honda Cars では、セーフティコーディネーター*（以下、SC）という Honda 社内資格を持ったスタッフが店頭でのお客様への安全アドバイスや安全ミニ講習会開催に取り組んでいます。SC の資格を取得するためには SC 研修の受講が義務づけられています。Honda では今年度から、SC 研修を Honda Cars 各社が自主開催できる仕組みに改定しました。内容も、お客様と地域を守る活動を推進するために必要な安全意識を醸成できるものに見直しています。これまで SC 研修は営業スタッフを中心とした

が、全職種に拡げられることも可能となりました。Honda Cars 市川は 5 月に SC 研修を実施。受講したスタッフは「Honda の一員として、あらためて事故や違反を絶対にしないように気を引き締めます。また、安全アドバイスとともに Honda の安全に対する理念や取組みもお客様にお伝えしていきたい」と決意を新たにしていました。また、Honda Cars 横浜（神奈川県）では新入社員研修の中に SC 研修を取り入れ、早期からスタッフの安全意識向上を図っています。



Honda Cars 市川で実施されたセーフティコーディネーター研修

交通事故ゼロの実現に貢献したい

四輪販売会社のスタッフは、お客様にとって一番身近な『交通安全のプロ』でなくてはなりません。そうした意識を醸成することが新しい SC 研修によってやりやすくなりました。研修を通じて、ノウハウだけでなく、Honda の安全思想や、どのような取組みを行ってきたかという根源的なことを理解しておくことは安全活動を進めるにあたって大切です。また、交通安全を地域に発信していくという取組みを活性化させるために、「あやとりい」による交通安全教室もさらに拡げていく予定です。四輪販売会社も Honda の一員として、交通事故ゼロの実現に貢献していきたいと思ひます。



ホンダ自動車販売店協会 総務委員会委員長 田口忍さん (Honda Cars 埼玉県東・代表取締役社長)

*セーフティコーディネーター＝お客様に店頭などで安全アドバイスができるスタッフ（Honda の社内資格）

2) 普及活動の変革と進化 02

交通安全教育に取り組む 地域の指導者をサポート



各地域に交通安全教育を定着させるためには、交通安全教育の現場を担う指導者の力が必要不可欠です。Honda の考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、地域の指導者、学校の先生方に対し、Honda の交通安全教育プログラムや教材、その指導方法の提供を通じて、交通安全教育をサポートしています。また、交通安全教育の場と機会を拡大するため、他業種と連携した活動にも取り組んでいます。



●地域の指導者による Honda の教育プログラムの活用

Honda では、全国 5 つの製作所／製造部内にある地区普及ブロック（栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本）が Honda の交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。

昨年 11 月に Honda が開発した高齢歩行者プログラムは、今年から全国各地への本格的な普及が進んでいます。このプログラムは、道路横断中の事故を防ぐための安全行動を高齢者に理解していただくことを目的としています。事故にいたる過程を歩行者とドライバー各々の目線で再現した映像を使

い、事故の原因を高齢者に考えていただくことで安全行動への理解が深まる内容になっています。（一財）岡山県交通安全協会 水島交通安全協会では、鈴鹿普及ブロックからプログラムと指導ノウハウの提供を受け、1 月より高齢者向けの交通安全教室に取り入れています。同協会シルバーセーフティサポーターの虫上陽子さんは「豊富な映像や画像によって話だけでは伝えきれないことを上手く説明できます。運転免許を持っていない方だけでなく、経験豊富な高齢ドライバーの皆さんにも充実した中身だと好評です」と、このプログラムを評価しています。



再現映像を使った道路横断シミュレーションの体験
（一財）岡山県交通安全協会 水島交通安全協会

●高校が独自で交通安全教育を実践できるマニュアル

高校生世代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期です。Honda は生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守れるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを 2012 年に開発し全国の高校に拡げてきました。そして今年、高校が自主的に運営できることをめざし、「高校生交通安全教育指導マニュアル」を完成させました。このマニュアル（DVD / CD）には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「感受性教育※」「実技教育」といったプログラムを収録。それぞれの教育内容について映像を使って解説しています。

福島県立福島工業高等学校では、2013 年から Honda の高校生交通

安全教育を取り入れています。4 年目を迎えた今年も、同校の先生方だけで生徒への交通安全教育を実施。マニュアルを活用して、1 年生を対象にクラス担任の先生方 7 名が感受性教育を行い、生徒に相手を思いやることや、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらいました。同校生徒指導部主事の渡部浩一教諭は「マニュアルは教育のフォーマットがきちんとでき上がっているのを見て準備をすれば、教員なら誰でも効果的な交通安全教育が実践できます。クラス担任の先生がやることで、私たちの意欲も生徒に伝わりやすい」と話しています。

※感受性教育とは、交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。



「高校生交通安全教育指導マニュアル」



福島県立福島工業高等学校の先生方による感受性教育（写真上）と実技教育（写真下）



●他業種との協働による交通安全活動の拡大

Honda は、交通安全活動の普及拡大に向けた取り組みの 1 つとして、全国に 300 以上の店舗を展開する自転車専門店のイオンバイク（株）と連携した活動を推進しています。この取り組みは、Honda が自転車の交通安全教育ノウハウをイオンバイクに提供し、同社がそのノウハウをお客様や地域の方々に提供するというものです。Honda の教育ノウハウと、イオンバイクの持つ自転車利用者との接点という両社の強みを持ち寄り、互いになり部分を補完することで、さらなる活動の充実をめざしています。

今年度は「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室」を全国へ拡大していくため、地域ごとにイオンバイクの店舗を管理する国内の全エリアマネージャーを対象に、指導者養成勉強会を実施しました。勉強会では、Honda のインストラクターが、子どもに指導する時のポイントや、基本練習・走行練習の具体的な内容を説明。その後、参加者同士によるロールプレイングによって、指導ノウハウを身につけていただきました。イオンバイクは今後、全国各地での教室開催を加速させていく考えです。



イオンバイクの「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室」指導者養成勉強会



2) 普及活動の変革と進化 03

福祉領域における安全運転教育



Hondaは「より多くの人にクルマを操る楽しさを提供したい」「交通社会に参加するすべての人の安全を守りたい」という理念のもと、お身体の不自由な方々の社会復帰に向けた安全な移動手段の確保のために教育の機会を提供しています。さらに、地域における運転復帰プロセス構築の支援として、病棟施設や福祉団体、自動車教習所との連携も進めています。

●運転復帰への可能性を広げる場と機会を創出する

高次脳機能障がいのある方がクルマの運転を通して社会復帰されることへの支援として「リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト（以下、サポートソフト）」や「自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）」の普及拡大に向けて取り組んでいます。四国地域ではサポートソフトを導入する病棟施設同士が連携して、共通の課題解決に取り組んでいます。Hondaも、こうした病棟施設の連携活動に協力することで、地域における運転復帰プロセスの構築を支援しています。自操

プログラムはHondaの交通教育センターで提供していますが、希望者がもっと身近な場所で受講できるようにするため、全国の自動車教習所への普及を図っています。また、福祉施設へのクルマでの送迎を担う運転者向けの「移送安全運転プログラム」も送迎サービスを提供する団体などに活用していただけるよう、はたらきかけを行っています。岡山県や山形県では、今年度から送迎運転者講習会にこのプログラムを実技として取り入れています。



自動車教習所の教習指導員に「自操安全運転プログラム」のノウハウを提供



山形県内で開催されている施設送迎運転者勉強会では実技演習として「移送安全運転プログラム」が取り入れられている

交通事故の低減に向けた関係諸団体との連携



Hondaは、交通安全活動をされている関係諸団体や業界の方々とも積極的に連携を深め、交通事故の低減に向けて取り組んでいます。

●教習指導員のレベルアップと交流の場を提供

Honda安全運転普及本部が、全国の自動車教習所教習指導員の皆様の自己研鑽への動機づけや交流の場をご提供することを目的として、2001年に始めた「全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（後援：（一社）全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業（株）法人営業部）は今年16回目を迎えました。会場と

なった鈴鹿サーキット交通教育センターで、全国82校142名の教習指導員の皆様が2日間にわたり競技に取り組みました。今回は大会史上初めて女性の教習指導員が普通二輪部門総合優勝を果たしました。また、この大会には、全国21校21名の教習指導員の皆様に審判員としてもご協力いただいています。



第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での四輪競技



第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会での二輪競技

●二輪車関連団体などの活動にも積極的に協力

Hondaは（一財）全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会が主催する「二輪車安全運転全国大会」での審判業務や、1969年より警察庁が開催している「全国白バイ安全運転競技大会」でも審判業務などに協力しています。

また、（一社）日本二輪車普及安全協会が実施する安全運転活動への各種協力や、（一社）日本自動車工業会が推進する高校生原付通学者や高齢ライダーへの安全運転指導などにも協力しています。



第49回二輪車安全運転全国大会の審判業務などに協力



第47回全国白バイ安全運転競技大会の審判業務などに協力

2) 普及活動の変革と進化 04

企業・団体や学校、個人に対応した参加体験型の実践教育



全国7ヵ所にあるHondaの交通教育センター（P26参照）ではHonda社内外の指導者養成や、企業・団体、学校、個人のお客様を中心に参加体験型の実践教育による安全運転への気づきと理解を促すための教育を行っています。今年は約9万人（10月末現在）の方にご利用いただきました。



●企業の安全運転教育や学校での交通安全教育をサポート

企業・団体向けには、業務内容や安全管理の実態に応じたプログラムを提供しています。例えば、鈴鹿サーキット交通教育センターは（一財）日本救護救急財団と連携し、「患者搬送・安全走行スキル研修」を実施しました。これは、病院や施設で緊急自動車の運用や患者搬送を担う職員に必要な運転スキルを身につけていただくことを目的としています。実技ではクルマの特性や危険回避方法、速度が車体と患者にどのような影響を与えているのかを体験し、病態に合わせた運転を学んでいただき

ました。また、交通教育センターレインボー埼玉は地域貢献活動の一環として、同センターのある埼玉県川島町内の小・中学校5校で自転車教室を開催。インストラクターが事故事例を再現し、事故に遭わないようにするための安全な自転車の乗り方を伝えました。このほか、同センターでは中学生社会体験チャレンジとして中学1年生3名を受け入れ、業務の体験を通して安全への理解を深めていただきました。



患者搬送・安全走行スキル研修（鈴鹿）



小・中学校での自転車教室（埼玉）

●新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム」がスタート

今年には交通教育センターレインボー浜名湖が企業向けの新安全運転教育プログラム「ドライビングマスタープログラム（以下、マスタープログラム）」を開発しました。多くの企業が交通教育センターを利用し、路上診断や安全運転研修の受講を通じて社員への安全運転教育を行っています。そうした企業からは社員各々の運転能力の判定や課題を把握するための研修を求める声があります。そ

こで、このプログラムでは企業ドライバーの運転能力や課題を客観的に診断し、自分の運転特性を把握していただけるようにしました。受講者はどの程度の安全運転能力を持っているのか理解でき、企業の安全運転管理者にとっては受講者のレベルを把握して社用車の運転認定や今後の運転教育に役立てられるようにもなっています。



交通教育センターレインボー浜名湖で行われている「ドライビングマスタープログラム」

●視覚障がいのある方々に運転する喜びを感じていただく

アクティブセーフティトレーニングパークもてぎは、旅行会社のクラブツーリズム（株）が主催している「視覚障がい者 夢の自動車運転体験ツアー」を2013年から受け入れています。視覚障がいのある方の運転体験は助手席に補助ブレーキが付いている車両を使用し、カーブや直線を組み合わせた様々なコースを走行します。運転

に必要な情報は助手席に同乗するインストラクターが受講者に伝達。ハンドルをアナログ時計の文字盤に見立て、左手の位置を指示。これに合わせて、アクセルやブレーキの踏み加減を指示し、視覚障がいのある方に自らクルマを操って運転する喜びを感じていただいています。



アクティブセーフティトレーニングパークもてぎでの「視覚障がい者 夢の自動車運転体験ツアー」



●Hondaのインストラクターの指導力向上と均質化をめざす

Hondaのインストラクターの指導力ならびに運転技術の向上を図る場と機会の提供を通して、全世界に通用するインストラクターの育成を目的に「セーフティジャパンインストラクター競技大会」を1997年から開催しています。17回目となる今年も、国内の交通教育センターや事業所、海外9カ国

からインストラクター72名が選手として参加しました。運転技術だけでなく、指導者としての幅広い知識を確認するため、二輪・四輪の実演を交えた「実技指導力審査」（海外選手は「筆記レポート」）も行うなど、指導力の向上につなげています。



第17回セーフティジャパンインストラクター競技大会



3) 海外における二輪事故低減の実現

海外における交通安全普及活動



海外におけるお客様や地域社会への交通安全普及活動は、Hondaの海外事業所が主体となって展開しています。その活動は、販売店でのお客様への安全アドバイスや、交通教育センターでの実践教育、女性のお客様や子どもを対象とした安全教育を中心に、政府や関係団体と連携しながら進められています。Hondaは各国の交通事情に即した活動が活発に展開されるよう支援しています。



●二輪指導者養成研修を刷新

二輪車が日常の足として使われているアジアを中心とした国々で、Hondaは二輪車の交通事故低減に向けて、積極的に活動を行っています。安全な交通社会を目指す海外事業所の二輪指導者養成のために、Hondaは日本の交通教育センターの協力のもと、養成研修の内容を刷新しました。指導力および企画運営力の強化を目的とした新しいカリキュラムの作成と、研修後に強みや弱みをフィードバック

するシートの開発により、指導者に必要な能力を総合的に伸ばす設計としました。また従来の教材や資料を統合し、カリキュラムとリンクさせて研修効率の向上を図るとともに、現地でも活用できるように英語版を作成しました。この新しい研修はこれまでにインド、インドネシア、台湾、中国、タイの二輪事業所の指導者へ実施され、今後、現地での活動展開が期待されます。



二輪指導者養成研修（新大洲本田摩托有限公司）

●台湾：大型二輪車の増加に合わせ安全運転普及活動を強化

台湾本田股份有限公司（Honda Taiwan）は、台湾現地の販売店と協力し、大型二輪車のお客様を中心に安全運転普及活動を強化しています。Honda Taiwanは、現地販売店による納車時安全アドバイスと、ライディングスクールの開催を活動の柱と位置付け、各地域で展開しています。2015年3月

から新規の指導者養成研修を日本で受講し、現在11名の現地インストラクターが活動しています。また、現地インストラクターが来日し、交通教育センターの研修や競技大会に参加して知識と技術のレベルアップを図っています。2015年9月よりHonda Taiwanと現地販売店のライディングスクールを開催し、お客様より高い

評価をいただいています。Hondaは、こうしたHonda Taiwanの取組を支援することで、台湾における安全運転普及活動を支援しています。



Honda Taiwan ライディングスクール

●タイ：タイ国内に交通教育施設を新たに2拠点開設

タイの二輪販売会社A.P.Hondaは、販売店は、もとより政府、関連団体と連携し、積極的に二輪車の安全運転普及活動を推進しています。タイ国内に安全運転の活動拠点である交通教育施設2拠点に加え、今年新たに2拠点を新設。

お客様や子どもなど一般向けの安全運転教室を開催し、多くのインストラクターを養成するなど、幅広く安全運転普及活動を展開中。Hondaはこうした取組に対し、日本の交通教育センターよりインストラクターをタイに派遣し、指導する一方、現地インストラクター

が来日して交通教育センターで研修を受けるなど、人的な交流を図りながら継続的に支援しています。



交通教育施設 / ブーケット

交通教育施設 / チェンマイ

●ベトナム：日本人インストラクターと共に四輪車安全運転研修を実施

Honda Vietnam Co., Ltd.（以下HVN）は、お客様、免許取得希望者、子ども、学生などへ向けた安全運転普及活動を長年行っています。今年、ベトナム警察を対象とした安全運転研修へ、日本の交通教育

センターのインストラクターを派遣し、従来の二輪車研修に加え、四輪車研修も実施しました。HVNインストラクターと現地の事故についてケーススタディーを実施するなど新しい試みを取り入れました。HVNはベトナム警察の活動に

も協力しながら、安全運転普及活動を推進しています。



ベトナム警察向け四輪車研修

●トルコ：小学校で子ども向け交通安全プログラム「あやとりい」を実施

Honda Turkiye A.S.（以下HTR）は交通教育センターで各種研修やイベントなどの安全運転普及活動を実施しています。2015年11月からはHondaの支援のもと、トルコ教育省等の承認を受け、子ども向け交通安全教育プログラム

「あやとりい」を導入し、HTR近辺の小学校25校1,500名の生徒、およびHTR従業員の子どもの教育を実施。今後は対象地域をトルコ全域へと広げ、このプログラムを通して「止まる」こと、「観る」ことの大切さを子どもたちに伝える活動を拡大します。



交通安全プログラム「あやとりい」を導入

ウェブサイトによる情報発信

Hondaの「交通安全」ウェブサイトでは、我々の活動の掲載を通じて、交通事故低減を目指す方々の活動のヒントとなり、また実際に活動をする上で活用頂けるオリジナルの教材や教育機器を紹介したコンテンツを豊富に取り揃えております。

● Hondaの交通安全情報紙「SJ」

SJ（セーフティジャパン）は、1971年8月の発刊以来、タイムリーな情報提供やHondaの交通安全教育のノウハウなど、様々な提案や普及活動を取引し掲載してきました。これからも、事故に遭わないモビリティ社会の実現に向けて、交通事故ゼロを目指す皆様のオピニオン情報紙として引き続き情報を提供します。

Hondaのウェブサイトでも、SJの全記事を毎号掲載しています。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/>



● 第3回 Honda交通安全ポスター・動画コンテスト

第3回 Honda交通安全ポスター・動画コンテストに数多くの応募作品が集まりました。3年目を迎える今年は、ポスター部門（応募数272点）・動画部門（応募数22点）の合計総数が294点と、前年の98点を大幅に超えました。今年のテーマは「未来の安全な交通社会～事故のない未来をあなたが作る～」です。Hondaはこのコンテストの目的として、お客様にコンテストに参加してもらうことで安全について普段から考え行動するきっかけを作って頂きたい、という願いを掲げています。一次審査、二次審査、最終審査を経て、「大賞」「優秀賞」「Honda賞」の各賞が贈られました。受賞作品はHondaのウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/movie_contest/



● 事故を起こさないために「すぐできる4つの運転習慣」

Hondaのホームページで展開している、子どもからシニアまで交通安全を楽しく学べるコンテンツです。交通事故の8割がクルマ同士の事故で、その事故形態のトップ4が「追突」「出会い頭」「右折」「左折」の4つです。このコンテンツでは、ネコのキャラクター「できるニャン」が、ちょっと面白い安全な運転方法を紹介しています。ぜひご覧ください。

http://www.honda.co.jp/safetyinfo/dekiru_nyan/butsukaranai/

交通安全啓発キャラクター「できるニャン」

子ども向け教育教材を展開するうえで特に注力したことは「楽しさ」。

安全教室で楽しく学べるよう、交通安全啓発キャラクター「できるニャン」が誕生しました。今後、「できるニャン」を通してお子様の交通安全学習が進むことを期待しています。



● 子どもからシニアまで交通安全を学べる教材

Hondaのウェブサイト「交通安全への取り組み」では、お子さまからシニアまで様々な方を対象にした教育教材などHondaオリジナルの交通安全情報を豊富に取り揃えています。「事故事例から学ぶ、自転車の危険走行」をはじめとした冊子や指導者向け教材などがダウンロードできるようになっており、また別途教育教材の購入も可能です。その他にも、イラストや動画でわかりやすく交通安全について学べる「危険予測トレーニング（KYT）」、親子で遊びながら学べる「交通安全ゲーム」など、幅広いコンテンツを随時公開しています。

<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/publish/>



● Hondaの安全運転教育機器

安全運転普及活動に長年携わった経験を活かし、シミュレーターや危険予測教育機器など、様々な交通安全の現場で活用いただくための教育機器を提供しています。



Honda ライディングトレーナー

手軽に利用できる二輪車安全運転教育機器として開発。運転診断機能によるアドバイスなど、効果的な安全教育が行えます。



Honda セーフティナビ

「環境」にやさしいエコドライブと「安全」な運転知識を楽しく学習できます。



リハビリテーション向け運転能力評価サポートソフト

四輪での運転復帰に向けて運転に対する評価・訓練をサポートするためのソフトで、運転環境の模擬的な再現により、運転操作における手足の複合的動作を楽しみながら行うことができます。

Honda 自転車シミュレーター

自転車を運転する際に起こりうる危険を安全に体験することで、危険予測能力や安全意識の向上を図ります。※小学生から高齢者まですべての世代にご利用いただいております。

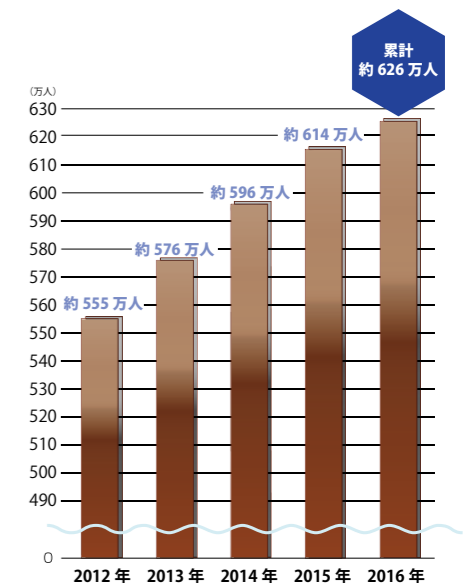
● 安全運転普及活動動員数累計

2016年安全運転普及活動の動員数の累計は、約626万人です。

Hondaは1970年以来絶える事なく地道に安全運転普及活動を継続、2016年にはその動員数の累計は約626万人に達しました。Hondaは「事故に遭わない社会」の実現をめざし、これまで以上にHondaグループ全体で交通安全に取り組んでいきます。

2016年安全運転普及活動動員数累計

*Hondaグループ活動、1970年～2016年末見込み



地域に根ざした活動を支援

Honda は地域における交通安全活動を支援するための活動拠点として、「地区普及ブロック」を全国5カ所（栃木、埼玉、浜松、鈴鹿、熊本）の製作所 / 製造部に設置しています。

交通事故防止には、ドライバー・ライダーだけでなく、子どもから高齢者まで様々な年代の方々への交通安全教育が必要です。行政・警察・関連団体・学校の方々をはじめとした地域で幅広く活動されている指導者に、Honda の交通安全教育プログラムを提供し、地域での交通安全活動をサポートしています。

幼児・小学生向けの「あやとりい」シリーズや、自転車の感受性教育や実技教育による「高校生交通安全教育」、「高齢歩行者プログラム」など、教材の提供のみでなく、その指導方法も伝えています。

また、地域の交通安全指導者の活動を継続的にサポートするための教材開発を目的に、研修（勉強会）を全国各地で開催。参加された各交通安全指導者による日ごろの指導方法の実演や意見交換によって情報共有を図り、指導力の向上に役立てて頂いています。このほか、Honda Cars の交通安全普及活動の支援も行っています。

●栃木普及ブロック

所在：栃木県真岡市

活動エリア：青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県

TEL：0285-84-7114

FAX：0285-84-3297



栃木普及ブロック / パワートレインユニット製造部

●埼玉普及ブロック

所在：埼玉県狭山市

活動エリア：北海道、新潟県、群馬県、長野県、埼玉県、山梨県、千葉県、東京都、神奈川県

TEL：04-2955-5323

FAX：04-2955-5749



埼玉普及ブロック / 埼玉製作所 狭山工場

●浜松普及ブロック

所在：静岡県浜松市

活動エリア：富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、静岡県、香川県、徳島県

TEL：053-439-2316

FAX：053-439-2317



浜松普及ブロック / トランスミッション製造部

●鈴鹿普及ブロック

所在：三重県鈴鹿市

活動エリア：三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、島根県、愛媛県、高知県

TEL：059-370-1553

FAX：059-370-1554



鈴鹿普及ブロック / 鈴鹿製作所

●熊本普及ブロック

所在：熊本県菊池郡大津町

活動エリア：山口県、福岡県、佐賀県、大分県、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

TEL：096-293-3206

FAX：096-293-8280



熊本普及ブロック / 熊本製作所

*交通安全教育等のご相談は安全運転普及本部の各地区普及ブロックにお問い合わせください。

2015年

12月

- 北海道各地区合同で「高齢歩行者プログラム研修会」実施（北海道、12/7～9）
- 愛知県・愛知県警察共催イベント「めざせ！3つ星ドライバーキャンペーン」協力（愛知県、12/13）

2016年

1月

- 山形県置賜、村山、最上総合支庁で「高齢歩行者プログラム研修会」実施（山形県、1/19～21）
- 山梨県各市合同で「高齢歩行者プログラム研修会」実施（山梨県、1/27～28）

2月

- 「兵庫県警察本部警察官高齢者プログラム講習会」実施（兵庫県、2/1）
- 「広島県警察官安全教育指導者講習会」実施（広島県、2/12）
- 「北関東・東北支部 HPI 賛同企業 交通安全普及活動報告会」実施（栃木県、2/19）

3月

- 「鈴鹿地区 HPI 賛同企業 交通安全普及活動報告会」実施（三重県、3/18）

4月

- 奈良県「春の交通安全県民大会」協力（奈良県、4/5）
- 静岡県交通安全協会「新任交通安全指導員研修」協力（静岡県、4/13）
- （株）ケーヒン栃木開発センターで HPI 主催「親子交通安全教室」実施（栃木県、4/23）
- 群馬県公立全高校の交通担当教員を対象にした指導者研修を実施（群馬県、4/27）

5月

- 群馬県西部地区安全教育研究協議会にて「中学校教員に向けた研修会」実施（群馬県、5/17）
- 「高知県高齢者アドバイザー研修会」開催（高知県、5/20）
- HondaFC U-18「自転車交通安全教室」実施（静岡県、5/28）

6月

- 「和歌山県教職員交通安全教室」開催（和歌山県、6/7）
- 長野県信州カーフェスタにて自転車シミュレーター出展と指導者育成を実施（長野県、6/10）

7月

- （株）ケーヒン角田開発センター（宮城県、7/2）、（株）ケーヒン狭山工場（埼玉県、7/10）で HPI 主催「親子交通安全教室」開催
- 石川県警察主催「石川県高校生交通安全フォーラム」講演（石川県、7/11）
- 「交通安全教育プログラム勉強会」開催（静岡県、7/28～7/29）

8月

- 「交通安全教育プログラム勉強会」開催（埼玉県、8/2～3・福島県、8/4～5・熊本県、8/9～10・兵庫県、8/25～26）
- 大宮警察署主催「中学生自転車シンポジウム」にて自転車シミュレーター出展と講習実施（埼玉県、8/26）
- 福井県主催「福井県内交通安全教育担当者研修」協力（福井県、8/30）

9月

- トピーファスナー工業（株）（長野県、9/10）、日信工業（株）（長野県、9/25）で HPI 主催「親子交通安全教室」開催
- 高山市主催「高山のりものフェスタ」協力（岐阜県、9/25）

10月

- 「交通指導員研修会」開催（広島県、10/4・岐阜県、10/7）
- （株）ショーワ御殿場工場で HPI 主催「親子交通安全教室」開催（静岡県、10/15）
- 静岡県主催「ふじのくに交通安全県民フェア」協力（静岡県、10/29～30）

11月

- 九州武蔵精密（株）で HPI 主催「親子交通安全教室」開催（熊本県、11/12）
- 福島県交通安全推進指導者研修開催（福島県、11/28）

* HPI = Honda Partnership Instructors

* この他にも、安全運転普及本部地区普及ブロックでは様々な活動を実施しています。

全国7ヵ所に広がる交通教育ネットワーク

全国7ヵ所のHondaの交通教育センターでは、運転のスキルアップから運転復帰支援、オーダーメイド可能な企業ドライバーの運転研修までを実施。危険を安全に体験するなど、豊富なノウハウで安全運転の知識や技術を楽しく学ぶことができます。ぜひ、お近くの交通教育センターへお問い合わせください。



交通教育センターが提供する安全運転教育プログラム

Hondaの交通教育センターでは「すべての人への手渡しの安全」を合言葉に、企業・学校のお客様を中心に実践的な安全運転教育や指導者養成教育を行っています。個人のお客様にも、クルマやバイクの魅力を安全に体験していただける様々なプログラムを用意しています。また近年では海外企業や団体のお客様も来日されるため、各国の交通事情に合わせた各種研修にも取り組んでいます。

●企業向け安全運転研修

初めてトラックを運転される方や緊急車両を運転される方への研修、エコドライブ研修、危険予測トレーニングなど、Honda交通教育センター独自のノウハウで企業ニーズに合わせたオーダーメイド型の安全運転教育を提供しています。

●親子でバイクを楽しむ会

小学1年生以上のお子様を対象に、お子様にバイクの楽しさ、交通ルールやマナーの大切さを伝えるスクールです。お父様やお母様が先生となりコミュニケーションを深めながら、交通安全の意識を高めていただけます。

●HMS (Honda モーターサイクリストスクール)

車両の取りまわし、運転姿勢や「走る・曲がる・止まる」というライディングの基本から高度な運転技術を身につけ、安全運転意識を高めていただくスクールです。Hondaのインストラクターが参加者のレベルに合わせたポイントを丁寧にアドバイスします。

●HDS (Honda ドライビングスクール)

「苦手を克服し、楽しく運転したい」「もっと上達したい」と言った気持ちをお持ちのお客様に、日頃の安全運転に役立つ知識や技術を身につけ、安全運転意識を高めていただくスクールです。Hondaのインストラクターが参加者のレベルに合わせたポイントを丁寧にアドバイスします。

2015年

- 12月 ●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（台湾、12/11～13）

2016年

- 1月 ●「Honda 高校生自転車交通安全教育指導マニュアル」完成

- 2月 ●「群馬県送迎サービス運転者講習」に実技演習導入（群馬県、2/9）
●第7回 四国運転リハプロジェクト会議開催（2/12）
●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（静岡県、2/16～24）

- 3月 ●全国回復期リハビリテーション病棟学会展示協力（沖縄県、3/4）
●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（台湾、3/4～6）
●大阪府警察本部と交通事故防止対策の推進に関する協定を締結（大阪府、3/10）

- 4月 ●「ALL Honda 春のセーフティキャンペーン」実施（4/1～30）
●「イオンバイク × Honda 浦和美園「親子で学ぶ 自転車あんぜん教室」開催（埼玉県、4/5）
●大阪バリアフリー展 機器展示（大阪府、4/21～23）
●交通教育センターレインボー浜名湖ドライビングマスタープログラム運用開始

- 6月 ●「第16回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」開催（三重県、6/2～3）
●第19回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2016 機器展示（愛知、6/2～4）
●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（台湾、6/3～5）
●アクティブセーフティトレーニングパーク ホンダモーターサイクルジャパン主催「スマートライディングスクール」開催（6/5）
●第8回 四国運転リハプロジェクト会議開催（6/10）
●Honda Vietnamへ「二輪・四輪インストラクター研修」およびベトナム警察へ「四輪研修」実施（ベトナム、6/10～17）
●プーケットとチェンマイの新交通教育センターにてA.P.Honda「二輪インストラクター研修」実施（タイ、6/19～25）
●日本病院学会展示協力（岩手県、6/23）

- 7月 ●鈴鹿サーキット交通教育センター ホンダモーターサイクルジャパン主催「スマートライディングスクール」開催（7/3）
●「イオンバイク西日本エリア指導者養成勉強会」実施（大阪府、7/14）
●「山形県送迎運転者勉強会」に実技演習導入（山形県、7/17）
●「イオンバイク東日本エリア指導者養成勉強会」実施（千葉県、7/19）
●新大洲本田へ「二輪インストラクター研修」実技（埼玉県、7/26～8/6）

- 8月 ●「第49回二輪車安全運転全国大会」に審判派遣協力（三重県、8/6～7）
●A.P.Hondaへ「二輪インストラクター研修」実施（埼玉県、8/23～9/3）
●岡山県へ「送迎運転者に向けた実技導入指導者養成」実施（岡山県、8/27）

- 9月 ●幼児向け交通安全プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」完成
●日本作業療法学会展示協力（北海道、9/11）
●「ALL Honda 秋のセーフティキャンペーン」実施（9/19～10/31）
●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（台湾、9/23～25）
●「第9回四国運転プロジェクト」開催 四国地域における自動車運転能力評価方法確立（香川県、9/29）

- 10月 ●警察庁「第47回全国白バイ安全運転競技大会」に審判派遣協力（茨城県、10/8～9）
●Honda Vietnamへ「二輪オフロード研修」実施（静岡県、10/9）
●第43回 国際福祉機器展 機器展示（東京都、10/12～14）
●Honda 海外事業所インストラクター対象「二輪・四輪レベルアップ研修」実施（静岡県、三重県、10/14～18）
●「海外事業所安全運転普及活動情報共有会」開催（三重県、10/19）
●「第17回セーフティジャパンインストラクター競技大会」開催（三重県、10/20～21）
●国営武蔵丘陵森林公園で「親子交通安全教室」埼玉県ホンダ会と共同開催（埼玉県、10/23）
●Honda Taiwanへ「二輪インストラクター研修」実施（埼玉県、10/23～25）

- 11月 ●交通教育センターレインボー浜名湖主催「浜名湖虹色フェスタ2016」開催（静岡県、11/19）
●「2016トラフィックセーフティ・フォーラム in 埼玉」開催（埼玉県、11/24）
●交通教育センターレインボー熊本 ホンダモーターサイクルジャパン主催「スマートライディングスクール」開催（11/26）

この他にも、安全運転普及本部では様々な活動を実施しています。